

NPO 法人環境市民 理事会 第8期 第8回(通算 81 回)理事会 議事録

(a)日時及び場所

日時:2017年4月12日(火)15:00-17:00

場所:NPO 法人環境市民事務所

(b)理事の総数

15人(うち定足数10人)

(c)出席した理事の氏名(以下、敬称略)

杵本育生、上田正幸、太田航平、下村委津子、原田紀久子、松田直子、瀬口亮子
以上7人。

特定非営利活動法人環境市民定款第40条第1項の規定により表決権を行使した理事は次の通り。
内田洋子、片山雅男、竺文彦、白石克孝、花田眞理子、早瀬昇、牧村好貞
以上7人。

(d)議長 下村委津子を指名

(e)議事録署名人 太田航平、松田直子

(f)議事録作成者 日下部伸行

以下詳細

(報告事項)

1: 企業のエシカル通信簿(別紙)について

市民目線でのレーティングを食品事業者5社とアパレル事業者5社を対象に10段階評価で多くのNGO/NPOと共に取り組みを行った。3月28日に東京で調査結果を発表し、満席になる盛況だった。内容として、平和・非暴力、アニマルウェルフェアの分野で日本企業の取り組みは遅れている。どちらかと言えば食品加工の方がアパレルよりやや優れていた。今後は他の業種にも広げていきたい。消費者が直接買うようなところからレーティングをして関心を高めたい。

上田: 点数の重み付けは?

杵本: 項目ごとに、調査票を作り、何を重視するかをNPO側で検討した。海外ではこのようなレーティングの事例が増えているが国内では初ではないか。毎日新聞でも大きく報道された。

下村: 一般紙と業界紙と通信関係(時事通信等)、雑誌関係が来た。時事通信、オルタナが速報で記事を出し、毎日新聞がきっちり取材して記事にしてくれた。

杵本: 今後こういう活動を育てていきたい。

上田: (成績について) 味の素が突出している。

杵本: あくまで企業としての評価なので商品内容を評価しているわけではない。味の素は非常に丁寧に対応してくれて電話などでもやり取りした。調査結果発表にも来てくれて感想をくれた。

原田: 10社は調査に同意してくれた?

杵本: 最初に公表されている資料を元に調査票を送りその返答を求めた。

下村：企業によっては調査と受け取らずアンケート扱いして「このようなアンケートには応えかねる」という反応もあった。

2：環境首都創造フォーラム in 宇部

杵本：今年は山口県宇部市で開催した。専門家や各地の自治体の方など、16自治体（うち11市町村長参加）、17NPO、全部で120人。最後に共同行動宣言を採択した。

下村：これまでは2日目の午後は先進事例の報告だったが、今回は2日目午後から3つの分科会を開催した。地元宇部で活動している団体の人たちが準備から手伝ってくれたことで、地元の人を巻き込んできた。

杵本：市町村長一同に会してというのを年に一度するのはいいこと。今年度は11月20日、21日に奈良市で開催する予定。

上田：総予算は？

杵本：宇部市110万ほど、こちらで100万くらい、合わせて200万程度。

上田：調整が大変だろう。

下村：杵本さんがほとんど担当で負担が集中しただろう。

杵本：200万と言ったが準備の人件費を考えるともっとかかる。

原田：人件費は大丈夫なのか？

杵本：地球環境基金や様々なところから捻出している。

原田：こんな良い活動であれば、国が出してくれたらいいのだが。

杵本：今年度ぜひ奈良に参加してください。

3：セミナー「京都からはじめよう！持続可能な社会へのパラダイムシフト～私たちの暮らしとSDGs、CSR～」

下村：3月9日にKESから全面的協力を得て開催した。開場はしんらん交流館、東本願寺北側の昔の大谷婦人会館。設備も最新でしかも安い。

講師として根本かおるさん（国際連合広報センター所長）、関正雄さん（損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR部上席顧問）、根本さんからSDGsがめざすものについて、関さんから企業としてSDGsをどのように展開するかのお話をいただいた。鼎談として杵本さんも加わり、地域としてどうしていくかなども議論した。参加人数も心配だったが79名、しんらん交流館の人など関係者を加え90人位参加した。SDGsは予算も付いているのでこれから色んな所で展開されそう。子ども用の説明のための冊子もある。

杵本：KESからの賛助金等あり、参加費や募金合わせて10万円ほど黒字になった。

原田：参加費は？

杵本：500円（会員・学生）と1000円（一般）だった。

原田：参加者は企業の人が多かったか？

下村：一般の人や学生なども幅広くあった。大阪・岡山・遠くは熊本から参加があった。

討議事項

1) 2017 年度の事業計画

太田：(環境首都創造 NGO 全国ネットワークの政策評価オリンピックについて) オリンピックという名称使用が問題になるかも。

原田：標章登録されているらしい。

杵本：その時は素直に名称変更する。

杵本：日本生協連が特にエシカル消費に取り組もうとしており、自社のグリーンウォッシュに敏感になっている。東京での2回の研修会を受託した。

日立アプライアンスでもグリーンウォッシュの話をする。社長以下全社的に研修会に参加する。

杵本：環境マイスターをもう少し拡大したい。環境マイスターのいるモデル店舗づくりを秋田のスズキと東京(トヨタ系)で行う。滋賀でステップアップ研修の話も。少しずつ拡大している。

石崎：持続可能な消費は、地球環境基金の3年目。消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークを34団体で構成しており、環境だけでなく人権やアニマルライツ、消費者団体など幅広いメンバーがいる。年4回ほど会議し、全国で活動を進めている。地域で活動する担い手を増やすべく、昨年度は沖縄・長野で開催した。各地で様々な団体とESDプログラムを集めて教材化を目指す。今年度は講座を福島とあと一箇所で開催予定。ESDプログラムは集めたものを教材化したい。企業のエシカル通信簿は対象業種を増やしたい。企業も交えて話し合う交流会の充実も図りたい。ぐりちょは、良い商品を紹介(企業レイティングとの違い)。サイト完成試験運用中。商品や取り扱い店舗を入れられるようにしており、全国から情報を集めて広げていきたい。

石崎：パワーシフト・キャンペーン FOE ジャパンの吉田さんが中心になってやっている。環境市民もそこに参加。おすすめの電力会社の紹介など。

瀬口：水 Do!キャンペーンを昨年度は助成金を得て進めており、今年2年目。昨年は水 Do!キャラバンを京都で開催した。京都市上下水道局と大学が京都市動物園で水道水のプロモをおこなった。京都市ごみ減量推進会議の堀さんからリーフ茶の事例、瀬口から海外の事例を紹介した。京都の市民が参加20名ほど。初めて実施したキャラバンとしてはよかったキャラバン形式かどうかはともかく、国内の会議ですらっとペットボトルが並ぶ光景を変えようとモニタリングしながら各地の事例を積み重ねたい。関西では未定だが可能性があれば紹介して欲しい。大学や自治体で水飲みインフラの設置を働きかけたい。「ぐりちょ」で飲料水という項目で作りたい。

下村：エコスクールは FEE Japan がもつプログラム。文科省のアクティブラーニングのプログラムでもある。自治体に紹介したり関心を持つ学校の先生にも紹介している。グリーンフラッグを取るための審査員を下村が務める。取るためのアドバイスなども行っている。

杵本：環境教育リーダー養成スタートアップ講座は例年春から夏にかけて行ってきたが、今年は秋から初冬を予定している。

杵本：あどぼの学校は、他の NGO が中心に事務局を担っている。今年は岐阜で開催する。アドボカシーのプラットフォームを関西で作りたい。京都中心にいろんな事を巻き込めないか。

杵本：松下幸之助財団で生物多様性と暮らしをテーマにした環境学習プログラムの開発と普及のために昨年度まで助成を受けた。身近な食べ物と自分たちがどうつながるのか、自分と環境がどうつながるか学べるプログラム。

原田：プログラムの実施にどれくらい時間がかかる？

杵本：45分から色々とカスタマイズできる。カレーライスからプランクトンまでを辿り、生物多様性の持つつながりを学ぶなど。

原田：価格は？

杵本：昨年度中なら無料だった。今は値段未決定。

原田：堀川商店街での活動で助成が取れたので来て欲しい。

杵本：下村さんや石崎さんが行くこともできる。

石崎：ニュースレターは、4pから8pにして内容充実を図り、毎月発行している。編集作業の中心山田岳さんが急逝され、やや編集作業が難航中。

杵本：ここは次回相談したい。毎月出したいが、時間を取られている。ラジオなどもあるので、様々な考えていきたい。

石崎：ウェブサイト、FB、メールニュースを用いた広報を行なっている。メールニュースは隔週水曜日に発信しており、日下部担当。

下村：コミュニティラジオ番組「エコまちライフ」を完全ボランティアメンバーで企画制作放送している。ボランティアでテーマを決め、ゲストを呼び放送する。作業を通してボランティアの皆さんの伝えるというスキルアップを実感している。

石崎：野の塾は環境市民ひろばとも連携して会員やボランティアが主体となり行う活動。昨年度は植月さんの講演会などを行った。来月5月13日にエコクッキングを行う。環境市民ひろばはお茶会的な感じ。雑談の中から哲学カフェや山小屋活動に派生している。ボランティアの活動もそこから生まれるものも大事にしている。

石崎：大宮学区は風岡さんが中心となりコーディネートしている。大宮学区で糺書房の方が環境部会の活動をされている。環境部会の活動をもっと住民を巻き込んでできないか、という相談の中から生まれた。滋賀発祥のふるさと絵屏風を大宮でも行うこととなり、立命館大学の永橋先生のゼミ生や大宮学区にいるプロの方も含めて本格制作へ向かっている。昨年度はお金が出ていたが、今年度は自分たちで資金を回している。

石崎：自転車マップはボランティアの藤本さんが主体で行なっている。前の自転車マップから10年が経ち、社会環境の変化や外国人観光客の増加などを受け改訂する。ボランティアでまもなく京都市内版が出版予定。郊外版はこれからまた作成する。

杵本：出版社を通じて出版する。かなり売れるのではと期待している。

瀬口：3Rの推進は昨年度あまりできなかったのが今年やりたい。メルマガを検討中。

杵本：海外の自治体等の交流として、昨年韓国の方と交流。グリーンコンシューマーの東アジアの国際会議を検討できたら。

下村：今年の自然エネルギー学校はオフグリッドを意識したもので市民発電も視野に入れる。FIT買取価格が低下してから、再エネの動きがよくない。

下村：講演やセミナーは、これまでの人的つながりから上映会を行った。SNS やネットの活用について、去年は環境市民チャンネルができなかった。ネット映像配信がしたいが技術的なフォローをしてくれる人を求めている。全国及び京都での連携としては、バイバイ原発の開催発起人として杵本代表が毎年行っている。ここでのネットワークを大切に引き続き連携したい。

杵本：今年は交野市の環境基本計画が改訂になるのでサポートする予定。多少でも収入にしたい。生協連へのサポートは、生協連が自分たちはよくやっていると思ってしまうのではなく、できていない部分を指摘して、内部の人にショックを与えたい。ミスタードーナツは予算を取って今年やるのではないかと考えている。

杵本：グリーン連合は、2回目の環境省との意見交換会を6月に行う。

杵本：環境市民では平和や民主主義にも取り組む。他団体の活動に参加することがメインだが喜ばれるので続けていきたい。

杵本：みどりの英会話は現在1クラス。ただ非常に熱心に続けているのでこれからも続けたい。

下村：事業計画には書いていないが、ESDJ の理事をしている。ESD センターを東京に設立し、地方センター、地域センターをつくる流れ。関西圏の担当理事が環境市民。関西で何かする場合、協力していく方向になる。まだ理事会開催していないが、今後何か起こる可能性もある。また、4月にはESD学会を設立し、そこに関わることになる予定。

杵本：バラバラやっているように見えるが、そうではなく一つのくくりの中でやっている。

瀬口：NL 発行について。今年度どうするかは検討中？

杵本：毎月発行は基本だが、他のメディアなどを検討して、ひょっとしたら違う形になるかも。

瀬口：8ページで？人員の確保はできているのか？

杵本：苦しいところ。日下部、石崎が中心に頑張っている。DTP できるボランティアが欲しい。

瀬口：ボランティアじゃなく予算を作ってプロに任せたらどうか？

杵本：できればいいのだが・・・

原田：ニュースレターの発行回数が多いんじゃないか？会員のニーズがちょっとわからないが。これだけの人数でこれだけのクオリティができるのが信じられない。どういう人達がサポートに入るとこれからも続けていけるのか？

杵本：ぐりちょ、エシカル通信簿など、主だった活動に活動ボランティアとして関わってもらえると嬉しい。

原田：大学院生など文章も書ける人などがいれば。

杵本：優秀なインターンが昨年度から来てくれている。過去には環境首都コンテストで卒論や修論を書いた人もいる。

瀬口：大西さんがスタッフとして入るのか？

杵本：6月以降大西さんがスタッフに入る可能性が高い。その際、石崎とワークシェアになりそう。

下村：大西さんは大学生の頃から17～8年くらい環境市民のボランティアでの関わりがある。

杵本：しばらく離れていたが、新城の地域おこし協力隊は3月末で終了して京都に戻る。

2) 新しい中期計画策定にむけて

石崎：次期中期計画案では、環境首都創造ネットワークと持続可能な消費を中心に「人づくり」などの要素を入れている。

下村：中期計画の為の検討だが、ここまではユースのものは案としてではなくもう少し曖昧な形で出る予定か？

石崎：多様なアイデアを盛り込んで意見を聞いた方がいいのではという流れになっている。

竹村：完成した中期計画を提案するのではなく、会員の声も取り込んだものにしたいという意見がある。6月の総会には他の意見を聞くセミナー的に、総会後半に行き、それを叩き台にして案を完成させていきたい。

石崎：進められるメンバーも含めて、メンバーを集めたい。

杵本：最終的には理事会決定なので、総会に出すのだけではなく、理事会以外の時間を使って理事に伝える機会が欲しい。

太田：具体的な方向性は作るが、会員や理事の意見も含めてまた作りなおす。一つの事業にどれだけのお金と人を使っていくか、限られた人員で助成金だけでその場しのぎをするのではなく、そこを乗り越えるために、続けていける形を模索したい。前進を続けるためには理事たちが主体的に引っ張っていくことも。安定的な経営を目指すためには具体的にどうするか、指定管理と取りに行くこと等も視野に含めて経営改善への基盤整備を模索したい。

原田：大体のことはここ数年検討をしてきたもの。具体的な数字がほしい。この活動には何人必要で費用はどれだけなど、今この規模をこれだけの売上にするためにこうするというもの。きれいな言葉だけじゃなく、数字と一緒に言葉があればいい。書いてあることはいいことが書いてあって、それでいいと思えるけどまた曖昧な意見だけが色々出てくる。誰が見ても具体的にこういうことをしたいというのが分かるものにしてほしい。

太田：そういうものもずっと検討している。ただ、今の理事たちがどう考えているのか、ユースがそこにどれだけ口出ししてもいいのか。3年前に合宿して削り落としたけれど未だこれだけ色々ある。

原田：削れていない。私が何故ユースに作って欲しいかと言ったか。次の世代が自分たちで担っていくものを作って欲しいから。

太田：言ったはいいが、本人たちがどれだけ関われるかという心配もある。中長期で考えれば具体的などころと漠然とした所があると思う。今作ったものも、あまり目新しくなく、面白く無いと思っている。

原田：もう少し話す時間を作ればどうか？

太田：理事会とは別の場で、話をする機会を作りたい。

杵本：総会でぱっと話を出して、どういう反応が出るか？

下村：出されても、今の状況ではぼやっとしている状況なので個別具体的にどうすれば、というの

がわからない。

原田：この課題を解決したいがそれを解決するにあたって、その解決のために実際に動きたいと思う人を募集すれば？こんなんええなあと思って作ったけど、いざ動くときに自分には本業あるしなあということになるかもしれない。

太田：今実際に具体的な名前を出してこうしたらという意見も若手が出ている。

原田：積極的に参画したい人はぜひ、と募集すればどうか？。

太田：総会で実際に言っても多分そう人は集まらない。少しずつこういう場で話し合っていきたい。

杵本：ユースと理事が何回かディスカッションをしたい。総会后、月に1回程度集まる場を作りたい。

太田：総会をスタートにして12月にはある程度のものを完成させたい。

原田：25周年と絡めて発表できたら一番だった。

杵本：総会でこれまでの議論を出せるようにまとめていくのでいいのではないか。

下村：25周年記念事業について、正式には7月が25周年だが、まだ何も決まっていない。

杵本：7月に限らずこの1年は25周年と銘打つ。

瀬口：予算は？

杵本：無い。

太田：ファンレイジングにいい機会では？

杵本：25周年ファンレイジングパーティを誰かがリーダーシップを取ってくれれば。

下村：今いる事務局スタッフは手一杯なので、誰かが練ってやろうかと思ってくだされば幸い。

原田：私も手を挙げたいけど人手がなくていっぱいいっぱい。総会で有志を募ってみるのは？

杵本：総会だけじゃなくて、募っていければ。飲み物や食べ物でも環境市民とつながりがあるものを持ち寄ったり、パーティ以外にも何かもうひとつくらいやれたらいい。

下村：総会で呼びかける。他にも個別でこれまで支えてくださった方に声をかけていく。

原田：長く会員をしている人でこの人なら、という人に声をかけるのも。会食交流しながらファンレイジングする。

杵本：もう一つはもっと自由なアイデア。私が暇ならエコツアーしたい。25周年の呼びかけ人を募りたい。

上田：楽しいパーティだけでなく、自分が主体的に参加できるものがないのではないか。

原田：別途会議が必要。

4) 2017年度総会

杵本：やるべきこと以外で満足できるものをしたい。去年は買い物ゲーム。今年は何か？

上田：SDGsの何かできないか。

杵本：ゲームが有る。

下村：SDGs すごろくで人生ゲームみたいな。

原田：興味なかった人が興味持てるものだったらいい。

杵本：飲食ができる場所なら、そういうものを用意してできればいい。

下村：フェアトレードのプログラムなど小吹さんが空いていたら来てもらえたらどうか。

杵本：出来るようならフェアトレードの食べ物飲み物を用意してやりましょう。5月の中旬にもう一回理事会を行いましょ。決算予測ですが、赤字は出さずに済みそう。みなさんのおかげです。

野村：経理から見て、杵本、下村の活動があまりにも多い。理事のみなさんにも何か手伝ってくれる人がいれば。

杵本：今年役員改選の年。個人的には現職の方に続けて欲しい。新しい若い有能な理事も入れたい。

下村：役員改選に関する事も次回の理事会で話し合う。

杵本：副代表理事の件も検討してください。財務担当理事もほしいです。

太田：会員委員会、財務（経営）委員会、環境市民のこれからを考える委員会（周年事業なども含め）など担当理事をおいたり、代表理事、副代表理事、事務局長/コーディネーターの三役会の開催もあったりしていいと思う。

下村：次回理事会もできるだけ早く決めたい。

以上